

町老人クラブ連合会交流会

～104名の元気な高齢者が参加～

平成26年度積丹町老人クラブ連合会交流会（荻野正会長）が2月26日総合文化センターで開催され、各地区の老人クラブ会員など104名が参加し、交流を深めました。

午前中は、NPO法人日本ナラティブ音楽療法協会理事長の^{おおみなとゆきひで}大湊幸秀氏による「歌って、笑って、心をリフレッシュ！」と題した講演が行われ、同氏の観客を引き込む軽快な語り口と、参加者全員で体を動かしながら歌う懐かしの曲に、会場は一体となって盛り上がりました。

午後からは、美国宝寿会の皆さんが歌や舞踊などで会場を盛り上げ、最後は参加者全員による「リンゴの唄」と恒例の「ボケない小唄」を声高らかに歌い上げ、交流会を締めくくりました。

また、この日はプロ演歌歌手の^{いまひとし}今仁志さんもステージに登壇。余別漁港の第15和光丸（能代谷政敏さん所有）をモチーフにした演歌「第15和光丸」等を披露し、プロが魅せる圧倒的な歌声が会場を魅了しました。

「元気なお年寄りの多いまち」積丹町。出席者の皆さんはお互いに交流を深め、明日への「元気」を蓄えていました。

※「第15和光丸」は昨年11月にクラウン徳間ミュージック販売株からCDが発売され、すでに通信カラオケなどで楽しめます。



今仁志さん



大湊 幸秀さん

■ 美国小学校 (12人)

(児童氏名・保護者の順)

飯田^{ちなつ}千夏 正勝

高野^{いきる}生 健治

笠嶋^{そうし}奏志 雄一

高橋^{そうた}颯太 夕子

窪内^{れな}玲奈 真紀

丹場^{しょうへい}祥平 康雄

熊本^{ひろと}大翔 忍

長谷川^{みらい}夢来 香織

小山^{こうが}弘雅 ひとみ

村木^{けんた}健太 亮太

佐藤^{みはね}美翔 正仁

山下^{めい}恵生 准司

■ 日司小学校 (1人)

三上^{たくま}託摩 晃弘

■ 余別小学校 (1人)

澤^{はるき}治輝 貴幸

もうすぐ待ちに待った小学校の入学式がやってきます。今年、入学を迎える児童は、平成20年4月2日から平成21年4月1日までに生まれた次の14人です。(敬称略)

今年 は 14人 が 入学

もうすぐ1年生!



実践型地域雇用創造事業 実践支援員3名の成果！

平成25年4月より、厚生労働省の委託事業として本格始動し、3名の実践支援員が約2年間にわたって町の地域資源を活用し、新たな特産品や観光メニューづくりなどに取り組んだ「実践型地域雇用創造事業」は3月末をもって事業終了となります。実践支援員が町の産業や観光等の振興を目指し、取り組んだその成果を紹介します。

農産部門

（東郷昌弘実践支援員）

農産部門では、町の新たな特産品となる作物の定着を目指し、ひまわりや生薬である当帰^{とうき}、にんにく、サフランなどの試験栽培に取り組み、結果として、にんにく（北海道在来種）と

サフランが積丹町の気候と土壌に適するとの結論に至りました。

そして、にんにくについては乾燥製品（スライスやパウダー）や黒ニンニクなど加工食品の試作、サフランについては国内先進地である大分県竹田市への視察及び、同市からサフラン生産の第一人者に来町、講演いただき、あまり身近ではなかったサフラン生産についての知識を高めるなど、それぞれの作物について農業者の所得向上を目指して活動を行いました。

また3月11日には町内の小学校で「積丹産サフラン」を使用したサフランライスが給食に登



▲給食にサフランライスが登場（野塚小学校）

場、鮮やかな黄色に染まったお米に児童からは「いつもと香りが全然違う！」と感嘆の声が上がっていました。現在、町内でにんにくの生産に取り組む世帯は13軒、サフランは5軒です。新たな「積丹ブランド」の芽が大きく花開くことを期待しましょう。

観光部門

（石川一寿実践支援員）

観光部門では、積丹観光を従来の「景勝地巡り」から「体験観光」へシフトさせるべく、他市町村の取組みの視察や観光商談会に足を運ぶなど情報収集を行いながら、体験観光メニューやルートマップの作成に尽力してきました。

新たに作成した「握り寿司体

験」、「お念珠作り体験」、「魚捌き体験」などの体験観光メニューを活用して2月には外国人向けモニターツアーを行い、さらに、3月には総仕上げとして旅行会社を対象にしたツアーを実施。作成した体験観光メニューが、訪れた観光客の期待に応えることができるのかどうか、プロからの意見を伺いま

した。参加者からは「魅力あるツアーだが積丹ならではのαが欲しい！」（観光の）素材が限られている中でまちを活性化させたいという思いが伝わった。その思いを町民の皆さんで共有することでより良いものが生まれるはず」といった感想が聞かれ、積丹体験観光のはじめの一步が着実に踏み出されたことを実感するものとなりました。

水産部門

（板野千恵子実践支援員）

水産部門では、水産品を活用した新たな加工商品の開発や、その販売先確保に向けた取組を進め、町内で捕れる海産物で、規格外のため市場に出回ることのないホッケやエビを使用して商品開発を行いました。

ホッケについては「すり身フライ」を試作し、バーガーにするなど様々な商品を試作し、その味についても好評を得ていましたが、供給面や魚価の高騰などの課題を突き付けられ、課題を残している状況です。

エビについては木村菓子舗さんと協力をいただいてエビの粉末入りサブレーを開発し、3月には千葉県幕張メッセで開催された食の展示会「フーデックスジャパン2015」でサンプルとして配布、口コミで好評を得て、商品について問合せいただくなど、新たな積丹土産として手ごたえを感じるものとなりました。

サブレーは木村菓子舗さんで販売しますが、今後の取扱店舗拡大が課題となっています。



▲ FOOD EX JAPAN 2015（千葉県）へ出店